

東日本大震災 2

最新の情報によると、ガバナー会に集められた義捐金は9億6100万円で、そのうち被災地区に送られた義捐金は僅か1億2300万円に過ぎず、残りの8億3800万円はガバナー会にプールされ、今後5年間かけて10億か20億の寄付を募って、被災児童の奨学金と、5 for 1プログラムに使うことに決定したとのことでした。

さらに驚いたことには、そのうちの5000万円が管理運営資金として、さらに5000万円が予備費としてガバナー会に保留されるということです。私たちはガバナー会の経費のために義捐金を支払ったわけではありません。全額を震災復興復旧に使ってもらいたいから、快く寄付に応じたのです。

頼まれもしないことに、しゃしゃり出て、挙句の果てには、自分たちのために1億円もピンハネをするとは、許しがたい行為です。経費がかかるのなら、ガバナーが自らポケットマネーを出すべきです。私たちは奉仕活動の実践は自らの労力と費用でまかなっているのです。

ガバナー会から義捐金を取り戻して、直接被災地に届けようという運動も、徐々に広がりを見せてきました。私が知りえたその後の状況を報告いたします。

2700地区(福岡)と2640地区(大阪、和歌山)は、昨年度の段階で返還請求を済ませて、直接被災地区に贈呈して、非常に喜ばれたと聞いています。

さらに2610地区(富山、石川)は総額1億円の義捐金を集めて、その大部分を富山、石川両県に避難している被災者に現金支給し、残額3000万円を直接2520地区に持参しました。その模様は2520地区のホームページで紹介されていますので、ご確認ください。<http://ri-d2520.com/topics.html>

なお姫路RCと茨木東RCはクラブ・レベルで返還請求をする予定と聞いています。

何度も申し上げますが、ガバナー会には義捐金を分配する権限はもちろんのこと、その他すべてのことを協議したり決定したりする権限はありません。ガバナー会はガバナーの親睦ないしは連絡調整機関に過ぎません。

地区ガバナーは地区唯一のRIの役員として、ガバナー会ではなく、地区内クラブの意見を集約してすべてのことを決定する責任と権限があるのです。

現在、被災地の沿岸地域にある23クラブが存亡の危機にあると聞いています。

どうぞ速やかに、ガバナー会から貴重な義捐金を取り戻して、被災地区を直接援助する活動を展開してください。そしてその使い道は、一番地元のニーズを知っている被災地区に任せようではありませんか。